

# 都道府県代協 会長の素顔



小林氏

宮城代協 第17代会長 小林良昭氏

## ネアカのびのびへこたれず

今年度、折橋久昭前会長の後を継いで宮城代協会長に就任したのが小林良昭氏だ。「会長になったから特別これまでと違つやり方を

するのではなく、折橋前会長や武田忠穂顧問の意思を引き継ぎながら会員増強や保険大学課程、代理店賠償など代協としての責務に注力していくだけ」と語る。

小林氏は東日本大震災の発生した年、宮城県代協地震対策委員長として地震保険普及に努め、本紙書籍「証言・東日本大震災」1兆

水被害に  
あった。  
消防団O  
Bでもあ  
る小林氏  
は自らが  
被災しな

がらも地域の被災者の支えとなる一方、多くの地震保険契約者のために奔走した。「ケンカしても地震保険を勧める」という強い信念から出た言葉は損保業界だけでなく、地域にも大きなインパクトを与えた。当時、小林氏に説得された地震保険契約者が、未曾有の大震災の中でも経済的に救われたことは言うまでもない。「地獄から天国ではないが、手を合わせて、涙を流して喜んでいただいたお客さまが何人いたことか。そこが、いわば私の第2の原点」と語る。

宮城代協には小林氏のように、地震保険付帯率100%に近い代理店が数多くあった。震災後、取材に当たった被災者から「代理店が神様に思えた」という言葉を幾度聞いたことだろうか。小林氏は3月、大阪代協で「東日本大震災を振り返って」をテーマに講演も行った。被災した宮城県岩沼市の様子や代理店の役割など生の声を届け、多くの賛同を得た。

小林氏は1984年にカーオーディオ関係の仕事から、自分自身の力で勝負できる保険業界へと足を踏み入れた。しかし、一からのスタートは厳しさもあった。「俺を試してくれ。俺を試してくれ」と、一人一人に自動車保険を勧めていった。

そこにはお客さまを絶対を守るという小林氏の責任感と自信があった。こつした自信はどのようにして養われたのか。実は、小林氏には尊敬する一人の武道家があった。極真空手の大山倍達総裁だ。小林氏は学生のころから極真空手を始め、保険代理店を営む傍ら、仙台道場岩沼分道場を任されていた。今は相談役となつているが、当時、道場では子どもや学生、大人に空手を指導。夏や冬には名取市閉上(ゆりあげ)海岸で合宿を行った。大山氏は「道場でいくら強くても社会に認知されなければならぬ」と常々語り、極真のブライドを持つて仕事や社会貢献に当たることを説いていた。小林氏の心の中にはそうした極真の自信と誇りが今も息づいている。しかし、子どもたちと寒稽古や合宿を行った閉上地区は東日本大震災の津波で壊滅的被害を受け、合宿した施設は失われ、数本の松が残っただけとなつてしまつた。

空手を含めスポーツを通じた社会貢献は小林氏の重視する視点だ。現在、小林氏は町内会の副会長、所属する保険会社のスポーツ後援会組織「ガッテンダース」の副会長を務め、女子柔道部選手が出場するリオデジャネイロ五輪にも応援で同行する予定だという。「ネアカのびのびへこたれず」という言葉が信条だと語る小林氏。保険業法改正により代理店経営も一段と厳しさを増す中、明るく元気に明日の宮城代協をけん引するリーダーの姿を期待したい。

【小林良昭氏プロフィール】1985年に保険会社の研修生を卒業、小林保険サービス(89)年に有限会社、平成14(2002)年に(株)エス・ハートに組織・社名を変更。代協活動では地震対策委員長、企画環境委員長、CSR委員長、組織委員長、副会長を歴任、現会長に。